

<今日の説教のポイント エフェソの信徒への手紙6章10～20節>

①すでに神の勝利は確定している中での、敗残兵との闘い（バルト）

ここだけ読むと、善と悪の勢力の最終戦争を告げているような気がします。しかし、すでに一章で、イエス・キリストによる神の勝利が確定したことが述べられています（特に1:21）。また、聖書は善と悪の神が戦っているような世界観は持っていません。神が世界を造られ、その神に背く人間の罪が世界に問題を引き起こしていると語っているだけです。しかし、人間の神への立ち帰りがイエス・キリストによってすでに起こり始めたと一章で高らかに告げているのです。バルトは例えて語りましたが、「戦いはすでに決した。神の勝利。しかしまだなお、敗残兵（罪）が残っている。彼らが時々出てきて悪さをするにはある。信仰者はその悪さに巻き込まれないように身を守るだけなのだ」と。ここでも「神の言葉：霊の剣」（17）以外は全て身を守る武具なのです。

②「神の言葉」は攻撃する武器？ しかし、それが同時に「福音」！

「神の言葉」が剣とはどういう意味でしょうか？ 人間を突き刺す武器？ 考えてみると、確かにそうです。私たちは、聖書を通して神様の言葉に耳を傾ける中で、初めて自分の罪に深く気づかされます。御言葉は私たちを鋭く突きさす剣です。しかし、それは同時に、そんな私たちの罪を赦して受け入れて下さる神様を知る時でもあるのです。剣は大いなる福音に導いてくれるものでもあるのです！ この手紙の書き手はこの福音を全ての人に宣べ伝えることを考え、それができるように祈ってほしいと願っています（15, 19, 20）。私たちも、この福音の恵みの大きさを覚え直して伝道に励みたいと思います。

③「祈って下さい」の意味は？ 祈りは神様を思うこと！

18節以下で書き手は、祈ること、また祈ってくれることに思いを寄せています。なぜこれほど「祈り」に力を入れるのでしょうか？ 祈る相手、祈ってもらう相手は神様です。「～できるように祈る、祈って下さい」で大事なことは、「私ができるようになる」ではなく、「神様ができるようにして下さる」ことなのです！ 神様を忘れ、神様を軽視してどんなに動いてもだめ、心は静まらない。神様に向かって祈り、主体者は神様であることを覚え直すことから始めることが大事なのです。